



# JOINT CONCERT in KARIYA

国境も世代も超えて

本日は、ご多忙の中、「JOINT CONCERT in KARIYA」に多数のご来場をいただき、誠にありがとうございます。

今回は、2010年10月3日に京都の地で第1回の産声をあげた、男声合唱団ARCHER（京都産業大学グリークラブOB）、名古屋市に本拠を置く男声合唱団グランフォニック、中国・上海の地で日系企業の駐在員により結成された上海グリークラブの3団体によるジョイントコンサートを開催地を愛知県刈谷市に移し、地元安城市的安城市少年少女合唱団と安城学園高等学校合唱部の皆さんへの贊助出演をいだだいて、タイトルの「世代も国境も超えて」の言葉どおりの5団体によるコンサートです。

昨年は、3月に東日本大震災というかつてない悲劇が東北地方を中心に起こりました。以来1年3か月近くになります。

本日は、愛知県にて避難生活をされておられる方々も会場にお招きしております。

被災され、深刻な事態から立ち直るべく頑張っておられる皆様方に、私どもの歌によってお見舞いと励ましの想いをお届けできれば幸いと願っております。

本日の第四ステージは、本邦初演の「新川和江の詩による橋本剛作品集」を男声100名余で歌い上げます。

可愛らしい子供から80歳を超えるおじいちゃんまで、心を一つにして演奏いたします。最後までお楽しみください。

JOINT CONCERT in KARIYA 実行委員長  
男声合唱団グランフォニック 団長 細江 太喜雄



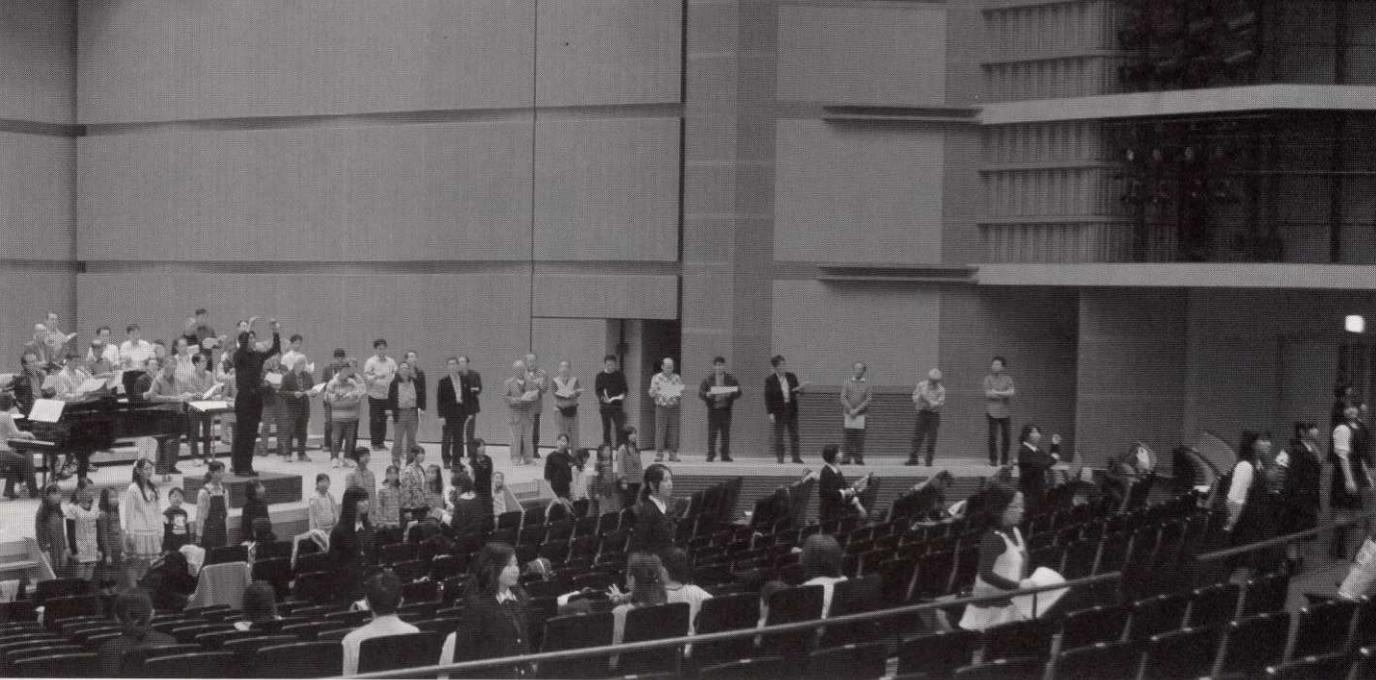
愛知県の皆様、はじめまして！男声合唱団 ARCHER（アルシェ）です。

私たちは、京都産業大学グリークラブのOB合唱団として、20代～60代の幅広いメンバーで、関西及び首都圏を中心に活動しています。10年前より、ほぼ2年に一回、単独演奏会を京都で行なっており、昨年10月には、第5回演奏会を開催いたしました。

大学OB合唱団の良さは、なんといっても、唱い始めればすぐに青春時代にタイムスリップできることです。そして、男声合唱は、日々企業戦士として戦う私たちの元気と活力の源です。特に、今日のような大きな舞台で唱えることは、最高の贅沢です。

本日は、2年前に京都でジョイントコンサートを行なった男声3団に加え、安城市少年少女合唱団と安城学園高等学校合唱部の皆さんと一緒に、まさに世代を超えたハーモニーを奏でられることを、団員一同、心から楽しみたいと思います。もちろん、ご来場の皆様にもご満足いただけるよう、半年間の練習の成果を精一杯お届けいたします。最後までお楽しみください。

男声合唱団ARCHER（アルシェ）団長 新庄 一範



ニーハオ！上海グリークラブです。本日のご来場、心より御礼申し上げます。

2010年10月、京都で開催されたアルシェ、グラントフォニックとのジョイントコンサートが、再び刈谷の地で実現でき大変嬉しく思います。

私どもは、かつて中国駐在時に結成されたグリークラブで、中国・上海を中心に演奏活動をしてきました。しかし、サラリーマンの宿命で、任期が来れば日本へ戻っていき、今は帰国者の方が多くなっています。メンバーが日本各地に散らばっているため、定期練習は難しいですが、今日のコンサートに向けて集まる機会を有効に使い、集中的に練習を重ねて参りました。

本日は、中国在住メンバーも含め、得意（！）の中国語曲で“しゃんぐりハーモニー”を皆さんにお届けします。また、今回は安城市少年少女合唱団、安城学園高等学校合唱部の皆さんとのコラボレーション演奏も企画され、張り切っております。どうぞお楽しみ下さい。

上海グリークラブ 代表 月原 英郎

本日は、グラントフォニック、アルシェ、上海グリークラブ各団の皆様のジョイントコンサートにご一緒させて頂きまして、まことにありがとうございます。

多くの皆様のご支援、ご協力のお陰で本日を迎えることが出来ましたことを、心より感謝申し上げます。

さて、私達にとりまして、おおぜいの大人の男声合唱団の方々とともに、立派な大ホールで演奏するようなことはまったく初めての経験で、贊助出演のお話を頂いた当初は、不安やとまどいも大きかったのですが、皆様と一緒に準備を進め、練習を重ねるうちに、不安が期待へと変わってきました。

今日はせっかく頂いたこのチャンスを、フレッシュで、笑顔いっぱいのステージにできますよう、精一杯、務めさせていただきます。

この素晴らしいホールの中、その、澄んだ歌声、若い息吹をどうぞお楽しみください。

安城市少年少女合唱団 団長 佐地 多美

安城学園高等学校合唱部 顧問 塩谷 幸大

# PROGRAM

Stage

## I

グランフォニックの世界

男声合唱団グランフォニック

グランファーレ序曲

指揮：成田正人 ピアノ：早瀬洋子

原詩：F.v.Schober 曲：なりた まさと

男声合唱組曲《草野心平の詩から》

指揮：小嶋 聰

詩：草野心平 曲：多田武彦

Stage

## II

アルシェの世界

男声合唱団ARCHER

指揮：北田 尚 ピアノ：伊吹元子

男声合唱組曲《ティオの夜の旅》より

「海神」「ローラ・ビーチ」

詩：池澤夏樹 曲：木下牧子

男声合唱とピアノのための「ゆうやけの歌」

詩：川崎 洋 曲：湯山 昭

Stage

## III

国境も世代も超えて

上海グリークラブ

指揮：成田正人

クラブソング

詩・曲：なりた まさと

里の秋／又見吹烟

詩：齊藤信夫 曲：海沼 実

編曲：なりた まさと

我は海の子／大海啊故郷

文部省唱歌／詩・曲：王 立平

編曲：なりた まさと

上海+安城コラボレーション

編曲：なりた まさと

緑のそよ風／夏は来ぬ

詩：清水かつら 曲：草川 信

詩：佐々木信綱 曲：小山作之助

安城市少年少女合唱団+安城学園高等学校合唱部

指揮：佐地多美 ピアノ：手嶋麻利

キーボード：吉田直美

歌えバンバン

詩：阪田寛夫 曲：山本直純

世界がひとつになるまで

詩：松井五郎 曲：馬飼野康二

編曲：原 由多加

いつだって

詩・曲：若松 敏

休憩

Stage

# IV

男声合唱による未知なる世界

指揮：成田正人 ピアノ：早瀬洋子

グランフォニック+アルシェ+上海グリークラブ

男声合唱版：委嘱初演

「新川和江の詩による橋本剛作品集」

詩：新川和江 曲：橋本 剛

1. あこがれ
2. どこかで
3. わたしの庭の……
4. 源流へ

# Ending

みなさまと共に～ふたたび国境も世代も超えて

会場のみなさまと出演者全員による

ふるさと

詩：高野辰之 曲：岡野貞一

編曲：なりた まさと

# I

Stage

## グランファーレ序曲

本日の演奏会は、この曲で扉が開きます。

「これまでの感謝と、これからチャレンジを象徴するように、高らかなファンファーレで開演したい」という団の想いから生まれた、グランフォニックのファンファーレ。団歌として2000年11月に作られた《グランファーレ～新しい風》をベースに、Schoberの《An die Musik（音楽に寄せて）》の詩を借りて、第10回定期演奏会用に書き下ろしたもの。その詩の通り、音楽に、芸術に、そして皆様に、心からの感謝を込めて演奏します。

## 男声合唱組曲「草野心平の詩から」

1961年、慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団の委嘱により作曲された組曲。初演時の指揮を務めた畠中良輔はそのパンフレットの中で、その10数年前、終戦時の中国での列車移動の情景が眼前に甦った、と語っています。5つの詩とメロディの中に込められた草野心平と多田武彦の“想い”によって記憶を甦らせたのではないでしょうか。

人を人として、人間として存在させるものは、人の心が持つ“想い”に他なりません。私達が忘れていた記憶、忘れ去りたい記憶をもう一度見つめ直し、甦らせた記憶に“想い”を吹き込んだこの5曲をお伝えします。

### 1. 石家荘にて

遙か北の国から逃れてきたたった1人の少女。消えない傷を心に隠しながらも、遊女の街でその日を生きるために一瞬見せる微笑みが、逆に自身の心を震わせます。そして街全体に蠢く人々の想いの交差が、ハ短調の重い和音の響きの中、深い闇に沈んでゆきます。

### 2. 天

搖るぎない、その圧倒的な存在感を誇る富士も、遙か彼方の天空から見下ろせばたった一つの躋に過ぎず、無限とも思われる洋い海もブリキの様。視線を変えると、さらにその上に拡がる大宇宙の存在。地上に生きる生物を超越した視点は、現代の我々に何を語るのでしょうか。

### 3. 金魚

青みどろの中にたゆたい見え隠れする金魚。その姿は様々なものを連想させます。時には水平線の彼方の野火、あるいはほんぼり、と。旋律と調性の揺れ動く様が傾城の美女をも想像させ、時代の興落、歴史そのものを詩・歌一体となって描かれています。

### 4. 雨

花巻の湯治場である志戸平温泉。天からの雨が番傘に、そして地面に落ち地上を濡らします。点となつた天からの問い合わせに対し、靄となって空一面に想いを返すのです。緊張感の続く組曲の中で、唯一心安らぐ間奏曲的な作品です。

### 5. さくら散る

さくらの咲く時間のあまりの短さへの儂さ、舞い落ちる愁い。「東洋の時間」という長い歴史の中で、数多の時代が生まれては夢と共に消えた、人々の想いを重ね合わせた曲。はなびら一つ一つの「ちる」、「まいおちる」が、全て違った感情、心で、私達に何かを訴えかけているように思えてなりません。

# H

Stage

男声合唱組曲《ティオの夜の旅》より  
「海神」「ローラ・ビーチ」

私たちのステージは、二人の作曲家の作品を取り上げ演奏いたします。

まずは、～ティオの夜の旅～この作品は、池澤夏樹の詩集「塩の道」から五つの詩を合唱組曲として木下牧子さんが作曲されたものです。今回はその中から、「海神」「ローラ・ビーチ」を演奏します。詩には海に関わる言葉がたくさんちりばめられていて、それを器楽的要素のある作曲により言葉と音楽が相俟って、自然が創りだす神秘の世界が目の前に現れてきます。人が海に寄せる勝手な想い、人間が知らない海の姿、激しくもあり安らぎを人は求め、またそれを与えてくれる海。そんな風景をお届けできればと思います。



## 男声合唱とピアノのための 「ゆうやけの歌」

次に、「ゆうやけの歌」。この作品は1976年、今から36年前に崇徳高校グリークラブ委嘱作品として発表されました。作曲者湯山昭さんのこの曲へメッセージをご披露します。

“ゆうやけこやけ じゆびたあ 焚け おんがくを 魚のように・・・・”何とダイナミックでしかも感性溢れる詩だろうか？“ゆうやけの歌”的詩の行間に、私は少年時代の私を垣間見た。この詩には読解などとは全く無縁な、ことばによる精神の解放がある。

青春の賛歌“ゆうやけの歌”は、徹底した楽天主義でつらぬかれている。もしそれに背を向けている人たちがいるとすれば、それは正にこの詩の最後の文句、、、、、、あかんべえ そのものと言わざるをえないだろう。（カイ出版「河童とゆうやけ」楽譜コメントより抜粋）

ぎらぎらと何か求めていたあの頃。いっぱいの大人に成了ったかのように思っていた学生時代。若いからできたバッカなこと。おおいちごが喰いたい。

今回の演奏曲は、出身母体である京都産業大学グリークラブが全日本合唱コンクールで演奏した曲です。10泊11日の合宿練習。いい大人になった私たちにはそんなことはできません。学生時代にコンクールに向け突走っていたように、真赤に染まったゆうやけに向かって走り出す。気持ちはいつでもそんな青春まったく中でありたい。そんな能天気なやろうどもの姿を応援いただければと思います。日々穏やかな世界も良し。摩擦を恐れず思いをぶつけあう暑苦しい世界も良し。最後には「あかんべえ」と言ってやろう。

# III

Stage

クラブソング

里の秋／又見吹烟

我は海の子／大海啊故郷

緑のそよ風／夏は来ぬ

冒頭は、世界をまたにかけ翔く者たちの集まりである上海グリーが、開幕時に必ず演奏するオリジナル『クラブソング』。異國の地で出会った一期の縁を心に刻みながら、「酒も好きだけど、歌はなお好き」と、日本語・中国語両方で歌い上げます。

さて、本日のステージは、安城のかわいい歌仲間とのコラボということで、日本の唱歌をテーマにしながら、中国の歌をミックスしてみました。

皆様よくご存知の『里の秋』は、中国や香港では『又見吹烟』と名を変え、「夕陽には詩心が、黄昏には絵心があるが、それよりも美しいのはあなただけ」という、淡い恋の歌詞で親しまれています。同じメロディでも、雰囲気がどのように変わるかをお楽しみください。

続いて『我は海の子』。実は中国にも同じような意味の歌詞を持つ曲があります。「海はわたしの故郷。海辺に生まれ育ち、常に海風と潮の香りが周りにあった。海はわたしの母同然。どこまで行っても、常にわたしの傍にあった」と歌う『大海啊故郷』。映画《海が呼んでいる》の主題歌として作られ、《北京の西瓜》という日本映画の挿入曲としても使われています。こちらは、同じような内容の詩が、まったく違う曲想のメロディで歌われるところをお楽しみください。

上海グリー最後の曲は、文字通り“国境も世代も超えて”お届けします。『緑のそよ風』と『夏は来ぬ』をメドレーで、安城のこどもたちと、老若男女一体となって歌い上げます。美しい日本の心が、いつまでも歌い継がれることを祈りながら。

## 歌えバンバン

作詞は「サッちゃん」を手がけた阪田寛夫さん、作曲は「いちねんせいになったら」「こぶたぬきつねこ」「男はつらいよのメインテーマ」など有名曲を手がけた山本直純さん。このお二人のタッグ作品は、「歌えバンバン」の他に「夕日が背中を押してくる」もあります。この曲は、1970年1月2日放送のNHK正月番組『うたえバンバン』のテーマソングとして作されました。

現在は小学校低学年でも歌える合唱曲として人気があり、音楽の授業や発表会などでよく歌われています。今日は、キーボードのオブリガードと、子供のはじける掛け声も入れて元気いっぱいにお届けします。

## 世界がひとつになるまで

テレビアニメ『忍たま乱太朗』（NHK教育）エンディングテーマで、忍たまファミリーの楽曲のカバー。アニメ、曲ともに昔から子供達に人気が有りましたが、最近では、ジャニーズJr.のユニットYa-Ya-yahがデビューシングルとして歌っていることから、注目を集めています。歌詞は心の内面に響くもので一つ一つの言葉を大切にメッセージを込めて歌います。

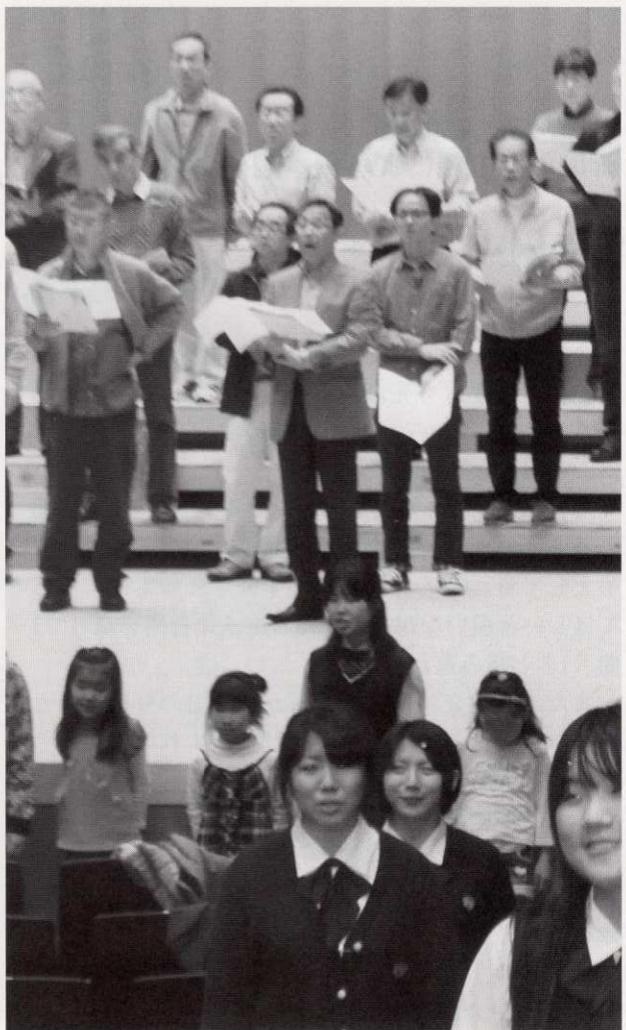
## いつだって

小学校中学年向けとして、4年生の音楽の教科書に掲載されたこともある曲ですが、どの年代の方でも歌っていただける、明るく、はつらつとした曲です。

《ほくらいつだって》のサビの部分が印象的ですが、他の部分でも、それぞれの曲想を捉えて、いろいろな表現が出来る曲です。

今日は、後奏部分にオリジナルの振り付けもしてみました。そちらも合わせてお楽しみ下さい。

みなさまと共に  
～ふたたび国境も世代も超えて  
合同リハーサル風景



# IV

## Stage

男声合唱版：委嘱初演  
新川和江の詩による橋本剛作品集

作品に寄せて

橋本 剛

今回演奏していただく新川和江の詩による4つの作品は、いずれも元は独唱歌曲として作曲したものですが、当初から様々な合唱編曲でも歌えるように、と想定していました。

現在私は、様々な詩人の詩をテキストとした100曲の「うた」を書く事を目標として、独唱としても合唱としても、老若男女を問わず愛されるものになってほしいと願いながら、指揮と生活の合間を縫って1曲、1曲と積み重ねています。

まだまだ麓を歩き始めたばかり、道のりは遠いと感じつつも、だからこそ、ではどうすればよいかと自分の生活やものごとの捉え方、知識や感動の吸収、人との関係のあり方を繰り返し見つめ直す作業は、自分が次々と塗り替えられていくようで、時に興奮（時に恐さ）を覚えるほどの新鮮さで、この目標を立てて良かった、と痛感します。

この私の「行脚」を知って、真っ先に賛同の手を上げて下さったのが成田正人先生でした。成田先生は20年来の私のよき理解者で、また私も先生の作曲から沢山の影響を受けて参りました。この度先生が、私のこれまでの一連の「うた」の中から、新川和江の詩によるものにスポットライトを当て、男声合唱版を委嘱して下さいました。曲の配列、効果的な調の設定なども、先生のご提案あってのものです。

◆「どこかで」は、第2作。これまでに特に多くの方に好んで演奏して頂いている作品です。短く軽快な楽想なので気楽に取り組める、という事もあると思いますが、そこに歌われる、壮大な世界のつながりに、共感して下さるからでしょう。

◆「あこがれ」は、第6作。実は詩のなかで鳥に歌われると、作曲する側としては苦労します。なんといっても彼らは歌の名手ですから。対抗するのはやめて、人間の側から、素直に鳥への「あこがれ」を託して詠おう、と思いました。

◆「わたしの庭の……」は、第8作。今回の作品の中では最も短い期間で書き上げました。じっくり推敲を重ねることの多い私としては、ギター一本でさらりと即興で歌う様な感覚は逆に新鮮で、今後そういう一面も大切にしたいと思います。

◆「源流へ」は、第10作。最も難産となった作品です。作曲に迷い、実際に川を「さかのぼり」ました。水のきらめきやせせらぎにあらためて感動した事は勿論でしたが、川沿いに綿々と続く家並みに突然気付き、どの屋根ひとつとっても、その下に家族の大変な生活と長い歴史がある、という事に深く感概を覚えました。

今回歌って下さるジョイントコンサート参加の皆さんをはじめ、新たに素晴らしい方々を引き寄せててくれる事も、この作曲の醍醐味です。作品を支えて下さる全ての方に、心よりお礼申し上げます。

作曲家 橋本 剛（はしもと・ごう）

早稲田大学高等学院グリークラブ、早稲田大学コールフリューゲルで、関谷晋、清水昭、清水敬一の指導の下、男声合唱を学ぶ。

両団体で学生指揮者を務め、それぞれ定期演奏会では自作の合唱組曲を指揮・初演した。その後、東京藝術大学作曲家および同大学院修士課程作曲専攻を終了。在学中に奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門優勝、文化庁舞台芸術創作奨励賞管弦楽曲部門入賞。またNHK教育番組に音楽講師として出演。

作曲を中川俊郎、二橋潤一、三善晃、尾高惇忠に師事。

現在、複数の合唱団の常任指揮者を務めながら作編曲活動を行なっている。2011年中田喜直賞候補、東日本大震災復興のための「歌おうNIPPON」プロジェクト（カワイ出版）参加。近年は、声楽作品を中心に据えつつ、画家とのリレー連作、慶應義塾大学来往舎の広大な空間を利用した総合演出的作品なども発表している。

2012年3月、名古屋で開催された第2回プルミエコンサートにて無伴奏男声合唱曲集「天景」を発表。同日カワイ出版より発売。本格的な男声合唱らしい作品として反響を呼んでいる。

## 潮流へ

さかのぼつて行こう  
天から直にきた水が  
山肌をつたい 木の根をめぐり  
ひとすじに纏い合わされて  
川となつて 流れ出すところへ

にんげんが  
もつと素朴で 謙虚で  
自然への礼節をわきまえていた時代

水もまた いそいそと  
人々の暮らしに寄り添つて流れてくれた  
わたしの父の そのまた父の父の父が  
若者だった頃 ほどりに自力で小屋を建て  
朝夕かがんで掌ですくつて飲んだのも  
その水だ

わたしの母の そのまた母の母の母が  
大釜でうすい粥を炊いて  
家族に飢えをしのがせたのも  
その水だ

水車小屋の水車を回し  
小麦粉を 黄粉を  
そば粉を 碾いてくれたのも  
その水だ

ゆつたりと川の流れる村で生まれ  
わたしも その水で産湯をつかつた  
わたしの骨格と血と肉は 川がくれた  
コイやウグイやアユや

わたしは今 ほそい踵の靴をはき  
都会の固い舗道のうえを歩いているが  
踝は ふくらはぎは  
つめたくて心地よかつた

わたしの耳は  
たのしげに歌いながら流れていた  
あのせせらぎを 覚えている

さかのぼつて行こう  
水が天のこころを映して  
天と同じく澄んでいるところへ  
すべての生命の  
おおもとのところへ

JASRAC 出  
1205514-201

詩人 新川 和江 (しんかわ・かずえ)

1929年茨城県結城市に生まれる。小学校の頃より野口雨情などの童謡に親しみ、定型詩などを作る。県立結城高等女学校在学中、近くに疎開してきた詩人の西條八十に詩作を師事。1948年東京に移住、少女雑誌や学習雑誌に物語や子供のための詩を書き始める。1953年最初の詩集『睡り椅子』を刊行。1983年吉原幸子と共に女性のための詩誌『現代詩ラ・メール』を創刊(～93年)。以降現在まで、数々の作品に賞が与えられている(右表)。また、その詩は多くの作曲家によって歌にされている。

- 1960年『季節の花詩集』第9回小学館児童出版文化賞受賞。
- 1965年『ローマの秋・その他』第5回室生犀星詩人賞受賞。
- 1987年『ひきわり麦抄』で第5回現代詩人賞受賞。
- 1993年『潮の庭から』で第3回丸山豊記念現代詩賞受賞。
- 1998年『けさの陽に』で第13回詩歌文学館賞受賞。
- 1999年『はたはたと頁がめくれ…』をはじめとする全業績に対し第37回藤村記念歴程賞受賞。
- 2000年『いつもどこかで』で第47回産経児童出版文化賞JR賞受賞。
- 2007年『記憶する水』で第25回現代詩花椿賞受賞。
- 2008年『記憶する水』で第15回丸山薰賞受賞。

# PROFILE

**小嶋 聰 指揮**  
Kojima Satoshi



千葉県出身。慶應義塾大学理工学部卒業。同大学院理工学研究科修了。某自動車製造会社へ勤務中。指揮を角田鋼亮に師事。

幼少よりピアノを始め、大学進学後、慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団に入団、畠中良輔、大久保昭男、北村協一、綱川立彦、佐藤正浩各先生に薰陶を受ける。大学合唱の傍ら、母校である慶應義塾中等部コーラス部を指導し、自身が中等部生のために編曲した、ミュージカル「レ・ミゼラブル」などを指揮。現在も後進の育成にも努めている。グランフォニックでは、昨年より副指揮者に就任、今回グランフォニックの指揮者として初舞台となる。現在、「グランフォニック」、「藤沢男声合唱団」、「男声合唱団チーム浅草橋。」に所属。

**北田 尚 指揮**  
Kitada Takashi



神戸市出身。  
北須磨高校合唱部を経て、  
京都産業大学グリークラブへ入団（第21代学生指揮者）。全日本合唱コンクール大学の部（1984～1987）において、吉村信良先生の指揮のもと4度の金賞を受賞。

OB合唱団ARCHERの指揮者として1993年の関西合唱コンクールで金賞受賞に導く。

合唱指揮を吉村信良氏、永井英晴氏に師事。現在、九州フレッシュメン・コア/コール・セコインデの団員でもある。

**成田 正人 指揮**  
Narita Masato



グランフォニック創設メンバー。5年間の中国生活から戻り、09年10月より当団指揮者に復帰。中国在住中に上海グリークラブを立ち上げ指揮者を務める。交声合唱団ミューザヴォーチェ指揮者。慶應義塾大学在学中、故・木下保氏、畠中良輔氏らの薰陶を受け、指揮法を伊藤栄一氏に師事。学生時代から合唱指揮の傍ら作詞・作曲・編曲に勤しみ現在に至る。編曲モノは数知れず、シナリオ起しから作曲まで自ら手掛ける音楽物語形式の作品も多数。代表作に『子犬のチロの物語』、男声合唱《愛の三部作》：『パパの子守歌』『絵描きと少年』『不破白人の恋』、盲導犬支援団体委嘱作『ハーネスで握手！』、常滑音楽祭委嘱作『ブチ・ハラハの謎』、華音の会委嘱作『歌うは愛する人のわざ』等々。昨年の『太郎の愛』は大好評、今年11月には新作『エリーの青春』を発表の予定。また、9月にソプラノ橋爪圭子氏と楽しいミニコンサートを企画、久々に「声」も披露する。

**伊吹 元子 ピアノ**  
Ibuki Motoko



京都市立芸術大学卒業。  
合唱ピアニストの第一人者として各地で活躍。全日本合唱コンクールでは、多くの合唱団と共に演し、たびたび金賞を受賞。

京都産業大学グリークラブの21年に亘る全国大会を全て伴奏。9年連続金賞1位獲得の立役者でもある。

長井賞奨励賞、京都府合唱連盟大賞を受賞。2008年度藤堂音楽褒賞受賞。

混声合唱団京都木曜会・男声合唱団ARCHERピアニスト。現在、大谷大学講師。

**早瀬 洋子 ピアノ**  
Hayase Yoko

愛知教育大学音楽科、  
同大学院修了。

在学中より、名古屋二期会、名古屋オペラ協会、  
名古屋市文化振興事業団、愛知県文化振興事業団、  
三重オペラ協会、岐阜県産業文化振興事業団、名古  
屋芸術大学、長久手オペラレクチャーコンサートなど  
で多数のオペラ、オペレッタ、ミュージカル公演  
のピアニスト、稽古ピアニスト、コレベティトゥアを  
務める。

栗原一身氏、平尾はるな氏、山崎晴代氏、故三浦  
洋一氏、ジャンニ・クリスチヤック氏らに師事。

現在、伴奏ピアニストとして活動する。また名古  
屋芸術大学では長年にわたり、オペラの授業助手を担  
当している。

**吉田 直美 キーボード**  
Yoshida Naomi

武蔵野音楽大学音楽学部  
器楽学科ピアノ専攻卒業。

武蔵野音楽大学卒業演奏会、読売中部新人演奏会、  
岡崎音楽家協会新人演奏会、むさしの会新人演奏会に  
出演。

近年ではPTNAピアノコンペティション グラン  
ミユーズ部門Dカテゴリーにおいて、地区本選1位通  
過、あわせて日響楽器賞、あしながおじさん賞受賞、  
全国大会出場。愛知ピアノコンクール 連弾E部門に  
において、金賞受賞。

PTNAピアノコンペティション 岡崎地区予選入賞者  
によるコンサート「はじめのいっぽ」においてゲスト  
出演など、多数演奏会に出演。連弾を中心に活動して  
いる。

現在、ツルタ楽器ピアノ講師 全日本ピアノ指導者協  
会会員、安城音楽協会会員、安城市少年少女合唱団ピ  
アニスト。



**佐地 多美 指揮**  
Saji Tami

名古屋市立菊里高等学校  
音楽科を経て、武蔵野音楽大学  
及び大学院修了。高階由美、福田富子、上浪明子、  
市田キヨ子、リーゼロッテ・エッガー、大滝雄志の  
諸氏に師事。

リサイタル29回、ジョイントリサイタル10回、お  
話と音楽による<At Home Concert>14回、  
<Konzert Ruhe>13回を開催。NHK-FM放送や各  
種コンサート、海外親善公演や宗教曲等のソリスト  
として客演。プロの声楽グループ“セント・ミカ  
エル・クワイヤー”的代表として、ヘンデルの「ブ  
ロッケス受難曲」を本邦初演、バロック音楽の二重  
唱・バッハの「カンタータ216番」を本邦初演。

愛知芸術文化協会理事、合唱指導、コンクールの  
審査員、安城市少年少女合唱団団長、教育現場での  
指導など、音楽文化の普及と振興に努める。

平成3年度 名古屋市芸術奨励賞受賞。名古屋女子  
大学教授。C B C クラブ会員。

今年11月15日(木)に、リサイタル(日本歌曲連  
続演奏会X)を開催予定。



**手嶋 麻利 ピアノ**  
Tejima Mari

武蔵野音楽大学音楽学部器楽科  
ピアノ専攻卒業。

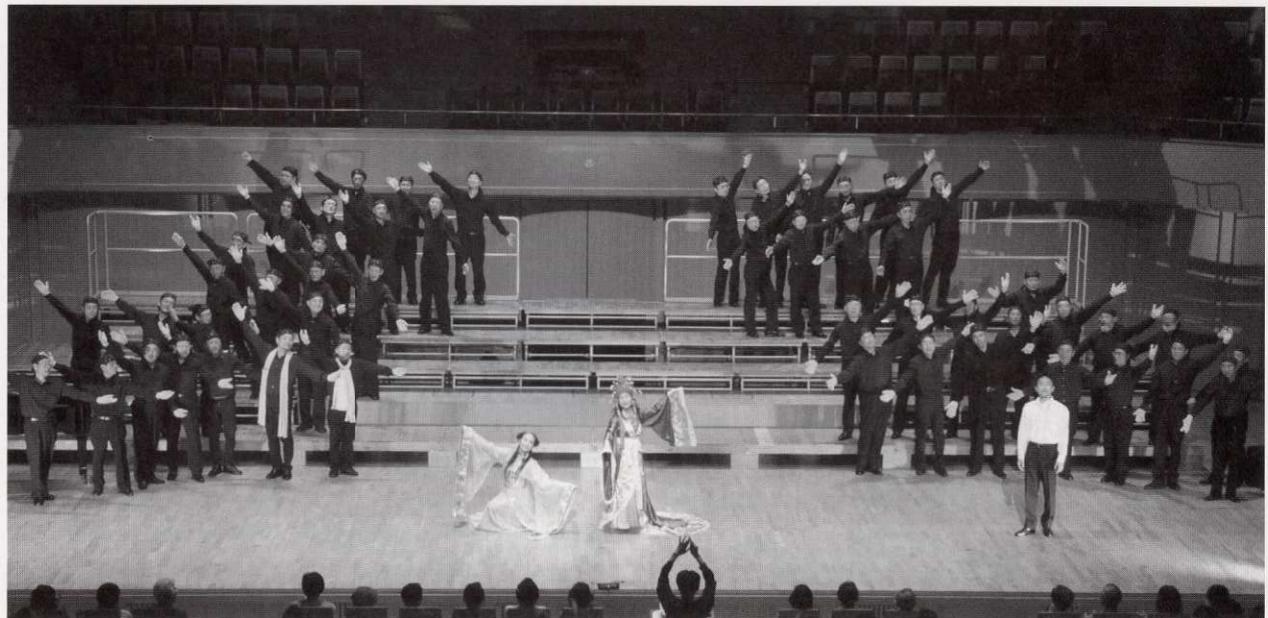
第21回むさしの会新人演奏会、テレビ愛知主催ニュー  
アーティストステージ「三つの響き」、安城音楽協会「第  
10回、13回、18回、演奏会」などに出演。

オペラ・声楽の伴奏、チャリティーコンサート、市内小  
学校・病院などへのボランティア活動にも参加。

坂井玲子、定行和子、森 博子、の各氏に師事。

現在、桜花学園大学、名古屋女子大学非常勤講師。安城  
市少年少女合唱団副団長、安城音楽協会会員。(社)全  
日本ピアノ指導者協会会員、愛知ピアノ研究会会員。





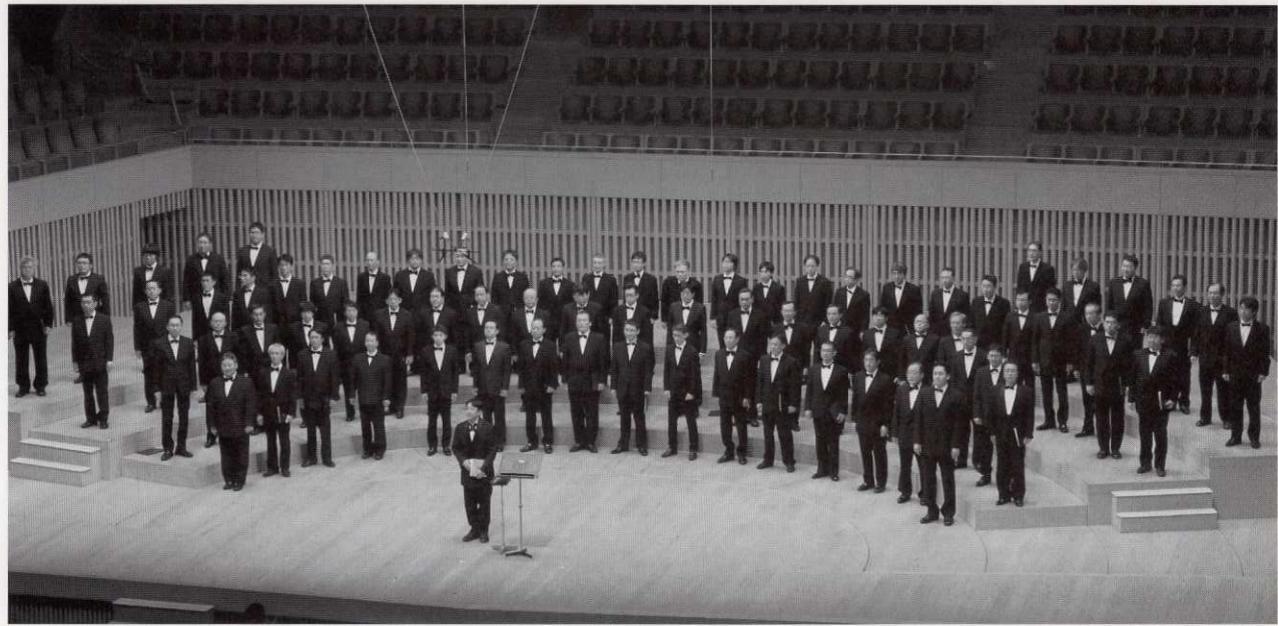
## 男声合唱団 グランフォニック

早いもので「グランフォニック」が名古屋の地に誕生してから足掛け17年の月日が流れました。働き盛りの壮年だった創設時のメンバーも、今や後期高齢者の仲間入り。でも、歌い続けることが何よりのアンチエイジングなのか、今日も元気にステージに立ちます。そんなますます意気軒高なおじいちゃん・おじちゃん達に引っ張られ、この17年の間にメンバーも増え続けて今や60名の大所

帶になりました。

20歳代から80歳代まで、仕事も故郷も体型も髪の毛の量もバラバラの私たちですが、歌うことが大好きという点では全員一致。週一回の定期練習と月一回の特別練習をベースに、活動を続けております。

<b>T<sup>1</sup></b>	佐々木正義 黒岩 実	三ツ松 平 小宮 俊英	伊藤 高潤 二神 晃	鹿住 誠 榎本 真丈	小林 武 石川 周二	鈴木 英孝
<b>T<sup>2</sup></b>	柴田 道昭 間瀬 譲	飯田 公男 新谷 岳史	三ツ口勝弥 松浦 治憲	石井 清 根木 和彦	伊東 健光 河内 幸雄	成田 正人 月原 英郎
<b>B<sup>1</sup></b>	細江太喜雄 天野 浩	神田 久嗣 黒田 泰男	弘瀬 嘉夫 鈴木 清次	寺島 正晃	安田 俊哉	芝木 昌一
<b>B<sup>2</sup></b>	藤山 祐司 松原 成憲 村上 信	浅野憲一郎 間瀬 裕史 木村 文隆	外村 俊夫 小嶋 聰	井ノ口貴敏 成井 詔彦	富田 敏夫 鈴木 秀樹	浅井 良之 古田 和則



### 男声合唱団 ARCHER（アルシェ）

1982年1月、現役とOBの合同ステージを契機にOB会を母体として発足いたしました。ARCHER（アルシェ）とは、フランス語で射手座を意味し、京都産業大学の学章であるサギタリウス（射手座）に由来しています。

主な活動としては、合唱連盟主催の合唱祭や男声合唱フェスティバルの参加をはじめ、定期的に単独の演奏会を開催しています。

昨年は、伊東恵司先生を客演指揮にお迎えし多田武彦先生作曲の「雪明りの路」を演奏いたしました。来年4月28日には、京都コンサートホールに於いて、多田武彦先生への委嘱作品「花筐」（はながたみ）を演奏いたします。私たちの誇りは、グリークラブ創設メンバーから現役まで約40年に渡る世代が一堂に会し、同じステージに立てることです。これからも現役の支援とともに、演奏活動の場を広げてまいります。

<b>T<sup>1</sup></b>	大原 守 高田 茂宏	中山 嘉晴 森分 章彦	青野 茂 岡村 修	樋田 勝彦 藤波 隆	松井 聰	北島 良仁
<b>T<sup>2</sup></b>	阪本 覚 津田 祐介	浦野 恭義 奥野 泰史	浅田 大輔	小田 州宏	野崎 恭輔	工藤 伸哉
<b>B<sup>1</sup></b>	松尾伸一郎 橋本 圭弘	岡本 敏幸 水野 雅喜	加納 秀郷 北田 尚	寺井 常彦 中野 雅人	藤居 聖三	谷利 威
<b>B<sup>2</sup></b>	浜野 研治 西川 泰功 藤田 賢二	横山 哲法 梅原 一夫 新庄 一範	若狭 明光 後藤 修 村田 憲章	佐竹 健一 土井原 聰 藤本 量三	駒田 貴司 玉川 義久	青木 活一 後藤 穎



## 上海グリークラブ

「上海グリークラブって何?」、「初めて聴くよ」とおっしゃるお客様がほとんどでしょう!それもそのはず、日本で歌うのはまだ2回目です。

上海グリークラブ発足は2004年クリスマス、場所は中国・上海。上海及び周辺地域で働く合唱好きの日系企業駐在員4人が集まって『きよしこの夜』をハモったのがスタートです。その後、メンバーも次第に増加、2007年9月、最初の定期演奏会在上海で開催しました。さらに、中国各地、マレーシア、インドネシア、香港などアジア各国で中国語曲を中心に世界の音楽を歌ってきました。

我がグリーの最大のセールスポイントは、多くのレパートリーがオリジナル編曲であることです。

本日も、ここでしか聴けないものを4曲お届けします。

現在、上海と日本に分かれて活動していますが、上海在住メンバーを“A会員”、帰国メンバーを“B会員”と称しており、本日はB会員中心で歌います。最近の動きとして、B会員が中国へ再赴任してA会員に戻る事例が出て来ました。また、シンガポールやイギリスに渡ったメンバーもあり、まさにインターナショナルな合唱団になっています。

将来、“世界を股にかけ”活躍する全メンバーが一堂に会して“しゃんぐりハーモニー”を奏でることを目指して、活動を続けて参ります。

**T<sup>1</sup>** 北田 尚  
成田 正人  
樋口 武男

相馬 仁志  
長谷川正吾  
山下 祐子

**T<sup>2</sup>** 月原 英郎  
村上 满

松下 達

**B<sup>1</sup>** 田中 敏之  
松下 駿助

**B<sup>2</sup>** 黒田 泰市  
鈴木 善憲  
古田 和則

藤居 聖三

篠田 伸夫  
橋 雅夫



### 安城市少年少女合唱団（賛助出演）

平成15年5月発足。

平成16年、各国大使とその家族を招待した安城市的公式行事「地球環境米米フォーラムin三河安城」、平成17年、「愛・地球博」への出演や、地域間交流の実践として、平成19年、<パティオちりゅう少年少女合唱団>、平成21年、安城市と「災害時相互応援協定」を結んでいる富山県砺波市の<となみミュージカルキッズ>との交流演奏会を開催。

平成18年から連続して「安城市市民公募文化事業」として演奏会を毎年開催し、地域の音楽文化の普及・育成に努めている。

平成24年は、安城市制60周年記念市民公募事業として、新実南吉原作の創作合唱ミュージカル『手ぶくろを買ひに』を、12月23日に上演予定。

石川 杏	杉浦 朱音	稻垣帆南美	鈴木 杏	稻垣早耶香
関口 秋帆	奥村 主基	多田 夏輝	小野 有紀	多田 瑞紀
神谷 朋花	筒木 すず	神谷 巴樺	中西あゆみ	神谷 佳楓
松田 瑞衣	勝田 航平	水上 愛美	楠名 りえ	宮澤 和枝
黒野 円香	宮澤 宏枝	酒井 穂	宮本 芽衣	柴田和佳奈
山本 和佳				



### 安城学園高等学校合唱部（賛助出演）

安城学園高等学校の文化部部活動として活躍する女声合唱団。学校内での活動のみならず、地域の文化行事参加・ボランティア演奏にも力を入れ、高校生らしい様々な文化活動を積んでいます。

また近年では海外の合唱フェスティバルにも積極的に参加し、合唱を通しての国際交流体験にも力を注ぐ。その他、NHK全国学校音楽コンクール、愛知県合唱コンクール、愛知県ヴォーカルアンサンブルコンテスト等にも積極的に参加し、合唱技術の向上の為に様々な努力を重ねています。

昨年度からは6月に稲沢市の合唱祭、12月には安城市で「ベートーベン 第九交響曲演奏会」にも出演し、新しい舞台にもたくさんチャレンジしている。近年の主な受賞歴としては、NHK全国学校音楽コンクール「銀賞」、愛知県合唱コンクール「銅賞」、愛知県ヴォーカルアンサンブルコンテスト「銀賞」などがある。

現在、声楽家塩谷幸大氏を指導に置き、顧問1名、副顧問1名、ピアニスト2名のサポートを受け、21名の生徒が発声のトレーニングに取り組みながら、音楽表現を追求している。

**3rd  
grader**

阿部 典子  
水野 真実

佐藤 愛梨  
岡本 希望

後藤めぐみ  
岩根 夕子

河野 舞

関根まりあ

**2nd  
grader**

壁谷真由実

小笠原 悠

山田江梨佳

大嶽祐美子

**1st  
grader**

朝岡 沙紀  
熊谷真奈美  
長澤芽衣子

市村 優奈  
榎原 莉  
桜野 優佳

江坂 美紅  
杉浦 令奈

岡島 早紀  
高木 沙羅

亀井 智子

**安城市少年少女合唱団  
安城市市制60周年記念市民公募事業  
安城市少年少女合唱団創立10周年記念演奏会**

日時：2012年12月23日（日）開演：14時（予定）

会場：安城市文化センター マツバホール

演奏曲目：音楽物語「ごんぎつね」

合唱ミュージカル「手ぶくろを買いに」 初演

**男声合唱団ARCHER（アルシェ）第6回演奏会**

日時：2013年4月28日（日）開場：13時15分 開演：14時（予定）

会場：京都コンサートホール 大ホール

演奏曲目：男声合唱組曲『花筐（はながたみ）』

作詩／三好 達治 作曲／多田 武彦

他（全4ステージ）

＜多田武彦先生への委嘱作品を初演します＞

**男声合唱団「グランフォニック」第11回定期演奏会**

日時：2012年11月3日（土・祝） 時刻未定

会場：愛知県芸術劇場 コンサートホール

総合演出：堀口文成

演奏曲目：「草野心平の詩から」 作曲：多田武彦

「チャイコフスキー・ロマンス」～チャイコフスキー歌曲集より

「園伊玖磨作品集」（岬の墓 他） 編曲：向川原慎一

「エリーの青春」～懐かしい日本の歌を素材としたコラージュ

脚本・編作曲：なりた まさと

# ふるさと

兎追いし かの山

小鮎釣りし かの川

夢は今もめぐりて

忘れがたき ふるさと

如何にいます 父母

恙無しや 友垣

雨に風につけても

思い出づる ふるさと

志を 果たして

いつの日にか 帰らん

山はあおきふるさと

水は清き ふるさと

JASRAC 出  
1205514-201



## “JOINT CONCERT in KARIYA” 実行委員

実行委員長（グランフォニック団長）	細江太喜雄
実行委員（グランフォニック）	成田正人、 鹿住 誠、 池田祐一 古田和則
(A R C H E R)	藤居聖三、 新庄一範、 北田 尚 浦野恭義
(上海グリークラブ)	月原英郎
(安城市少年少女合唱団)	佐地多美、 手嶋麻利
(安城学園高等学校合唱部)	塩谷幸大
ステージマネージャー	磯田有香

# JOINT CONCERT in KARIYA

～国境も世代も超えて～

世界有数の平和で豊かな国を造り上げてくれた

　オジイチャマたち、

世界をまたにかけ社会経済を支えている

　オジサマや若者たち、

そしてこれから未来を築いて行く

　子どもたちが、

一同に会して高らかに歌い上げます。

## Stage. I

歌って踊って芝居のできる稀有な合唱団が  
今回はアカペラ多田武彦作品に挑戦

男声合唱団グランフォニックの世界

男声合唱組曲「草野心平の詩から」

指揮：小嶋 聰

## Stage. II

全国コンクールで長年にわたって金賞を取り続けてきた  
京都産業大学グリーのOB合唱団、刈谷に見参！

男声合唱団ARCHER アルシェの世界

男声合唱とピアノのための ゆうやけの歌

男声合唱組曲 ティオの夜の旅より「海神」「ローラ・ビーチ」

指揮：北田 尚 ピアノ：伊吹 元子

## Stage. III

上海の“おとな”と安城の“子ども”たちによる  
楽しいコラボレーション

上海グリークラブ・安城市少年少女合唱団・安城学園高等学校合唱部の世界

「里の秋／又見炊煙」

「我是海の子／大海阿故郷」他～上海から

指揮：成田 正人

「歌えバンバン」「いつだって！」他～安城から

指揮：佐地 多美 ピアノ：手嶋 麻利

## Stage. IV

100名を超す男声の大迫力と繊細さで織りなす  
巨星・新川和江と氣鋭・橋本剛の世界

男声合唱合同演奏による未知なる世界

「新川和江の詩による橋本剛作品集」(男声合唱版：委嘱初演)

指揮：成田 正人 ピアノ：早瀬 洋子

2012  
**6.2**  
(土)

開演 14:30 (開場 14:00)

刈谷市総合文化センター 大ホール

〒448-0858 愛知県刈谷市若松町2丁目104番地

Tel:0566-21-7430

J R東海道本線刈谷駅、名鉄三河線刈谷駅→南口より徒歩3分

全席自由：一般／¥900 高校生以下／¥500

お問い合わせ：細江 090-1244-2234

THE GRANPHONIC <http://www.granphonic.com/>